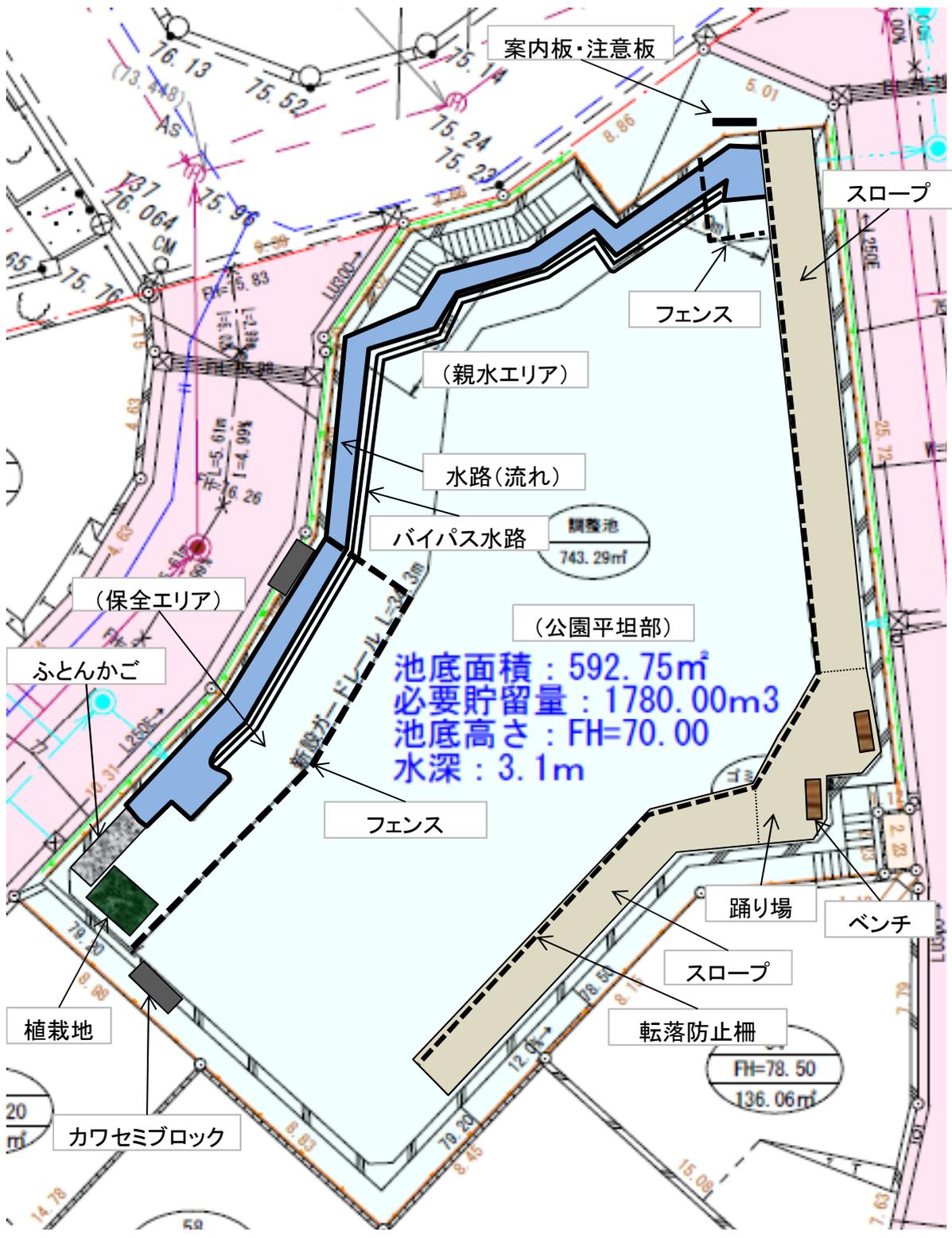


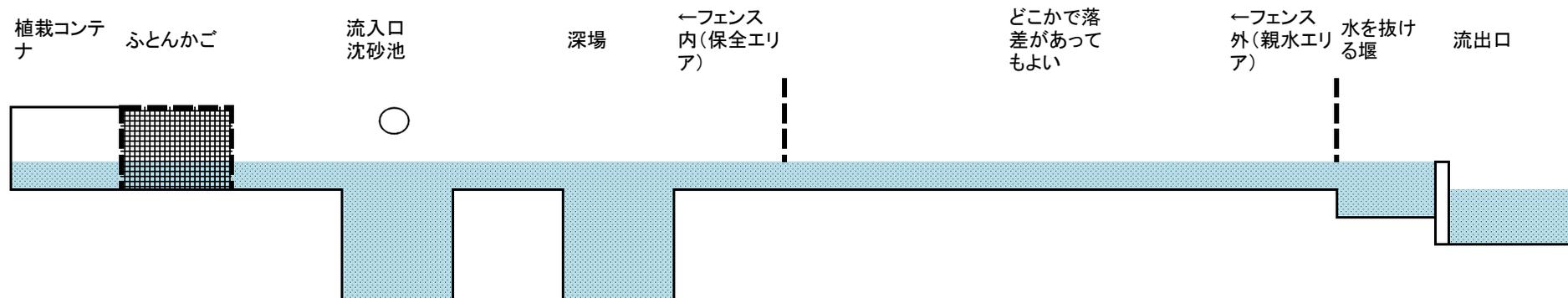
# 調整池の公園化 整備内容のイメージ

2014/4/14

- ・外周は侵入・転落防止のため高さ1.8m以上のメッシュフェンス(色はダークブラウン)を設置する。
- ・入口に案内板、注意板を設置する。
- ・池底に降りられるスロープ(幅2m程度、維持管理用軽車両通行可能)をつける。
- ・スロープの途中には、平坦な踊り場を設けて、ベンチを設置する。(湛水時でも公園として一定の活用を可能にする)
- ・スロープには転落防止用の柵(錆びないプラスチック擬木)を設置する。
- ・北側の当初計画の階段は、あっても無くても良い。転落防止柵は公園の景観に配慮しプラ擬木か茶色とする。水路をまたぐ際は飛び石、蓋かけ等で配慮
- ・池底は全てコンクリートとする。(自然配慮の観点で土にしたほうが良いという考えがあるが、必要性はない)
- ・公園とする池底の平坦部にはベンチなどの施設は特に必要なく平地の広場のみで構わないと思うが、町田市との調整による。
- ・池底全体の平坦部も水勾配は必要である。また公園側の壁面周囲にも深さ5cm程度の排水溝を設置する。
- ・全体の池底は、必要貯留量を確保できるように高さを設定する
- ・平常時は湧水が水路(流れ)を流れる。
- ・降雨時水量が増加したら、バイパス水路(U型溝など)をとる。
- ・バイパス水路は、流れと平行して設置するが、壁側でも平坦部側でもどちらでも構わない。親水エリアで特に平坦部側の場合、U型溝は転落防止のため蓋をつける。
- ・さらに水量が増加の場合は、水路周辺が湛水し、さらに増加した場合に調整池として全体に溜まっていく。
- ・水路(流れ)は幅1m程度とする。
- ・水路(流れ)はわざわざ曲線にする必要はなく直線的で構わない。
- ・水路(流れ)には一部水深1m程度の深みを作る(生物の冬越しの場合)
- ・水の流入口は、沈砂池的機能を持たせるために深みを作っておく。
- ・暗渠からの流入口は落差を設けて、酸素が入るようにする。
- ・通常水が流れる水路(流れ)の水深は15cm程度とする。(長靴で歩ける水深。ホトケドジョウは十分生息できる。あまり深いとコイなどを放されてしまう恐れあり)
- ・水を抜きたいときは全て抜けるように高さ調節ができる流出口(いたずら防止で鍵式が良い)とする。
- ・流出口周辺は危険防止のため、高さ1.8mメッシュフェンスで囲う。鍵式扉とする。
- ・流れの半分は高さ1.8m以上(できれば忍び返し付き)の侵入防止のメッシュフェンスで囲い生物の生息空間を保全。管理用に鍵式扉を設置。
- ・流入口から西方向の角は、ふとんかごや砂利で多孔質空間を作りサワガニが生息できる場所とする。
- ・フェンス内に一部、大型コンクリート製プランター等で植栽地を作り、湿性希少植物の移植場所とする。
- ・北面のコンクリート壁(水路沿い)は、ナチュロックなどの多孔質張り石化粧などで生態系に配慮したものとする。予算との兼ね合いだが、最低限、水路に接する底面から数十センチ程度は行う。
- ・公園側の壁面についても、壁打ちテニスや一人キャッチボールの対策としては、目地や化粧型枠などを設けた方が良い。
- ・壁面上部にカワセミ営巣ブロックを設置面を変えて2か所程度設置する。



●縦断イメージ



●横断イメージ

